

四賀ガルテナーの楽しみ

# ガルテンは何してん!?

## 雪が描く北アルプスの絶景に 魅せられ田舎暮らし満喫中

緑ヶ丘クラインガルテン 337号

齋藤洋二郎さん・久美子さん

横浜市中区から通う齋藤洋二郎さん(70)は、今年で6年目を迎えるガルテナーです。土いじりのできないこの季節は、

ラウベ周辺の雪景色を眺めながら、大好きなコーヒーを楽しみ、至福のときを過ごしています。大のドライブ旅行好きと

いう齋藤さん。北海道から九州まで、カメラ片手に観光地はほとんど網羅した、とにこやかに語ります。中でも北アルプスの迫力ある雪景色にはすっかり魅了され、季節ごとに移り変わる山の姿を見ようと、数年間は年に6〜7回も通ったそうです。

齋藤さんは埼玉県の田舎にも住んだ経験があり、その隣には花卉栽培の畑があつて、とても良い先生の指導で若いころから何十種類もの花や野菜を育てていたと話します。その経験を生かして「仕事引退後は、北アルプスの近くで双方の拠点にできる田舎暮らしをしよう」と思い立ち、偶然にもある美術館の方に教わった四賀の里に足を運ぶことになった、と信州との不思議な縁を話します。

今では土いじりだけでも楽しいという齋藤さんは、年に2500日くらいを四賀で過ごしながら、自宅のある横浜でも畑を借りています。四賀から「福寿有機1号」をせっせと運んで、野菜作りなどに余念がありません。それもすべてスコップ1本で耕すため

に、月間3000回目標の腕立て伏せもしているそうです。

そんな有機無農薬で作った元気な野菜類は30種類以上にも上り、収穫した野菜の7割ほどを子供さんたちや知人に贈って、とても喜ばれているようです。ちよつとした時間には、妻の久美子さんと連れ立って北アルプスの山麓線沿いにあるそば屋やパン工房巡りで安曇野の雲囲気を楽しんでいます。

「長野の生活で一番感じるのは、四季の変化がはつきりしていて、その季節ごとの楽しみがあること」とおっしゃる齋藤さん。

1人でコーヒー道具を抱え、白馬の雪の中でお湯を沸かして挽き豆コーヒーを楽しんだり、親交の厚い、田舎の親戚、川窪さんご夫妻に手ほどきを受けて、おやき作りをはじめ漬物、干し柿、切り干し大根なども作ってみました。

まだ時々頼まれ仕事もあるようですが、大好きな北アルプスを眺める心の充実感を味わいながら、夏場は畑とドライブ、冬場は写真撮影や厳寒の白馬の山々に登るなど極上の日々を過ごしている、と満面の笑みがこぼれます。